

平成15年12月16日

川崎シンフォニーホール債の販売状況・購入者アンケート結果

市債の個人消化・公募化を通じた資金調達手法の多様化、市民の市政への参画意識の高揚を図るとともにシティーセールスの一環として、川崎駅西口市民文化施設事業を対象とした住民参加型ミニ市場公募債「川崎シンフォニーホール債」20億円（5年満期一括償還）を、11月12日に市民を中心に募集し、施設取得に合わせて12月4日に発行したところですが、その販売状況及び購入者アンケート結果がまとまりましたのでお知らせします。

1 販売状況

11月12日に募集を開始したところ、午前9時の販売開始後30分経過で49%、正午には60%以上、午後4時には完売となりました。

今回の販売が即日完売と好評であったのは、利率が0.72%と、他の預貯金などと比較すると有利であったほか、対象事業・市政への市民の関心が非常に高かったものと考えられます。

■ 販売状況（表1）

完売時刻（11月12日）	9:20	9:30	10:00	13:15	14:30	15:00	16:00
販売累計額（百万円）	80	980	1,220	1,320	1,560	1,660	2,000
販売進捗率	4%	49%	61%	66%	78%	83%	100%

2 販売件数及び金額

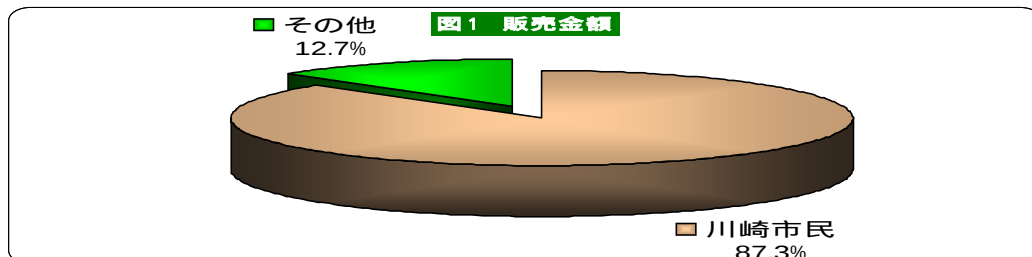
販売件数は1,117件で、平均しますと1件当たり179万円の購入となります。

また、引受金融機関には、50%（10億円）以上の川崎市民への販売を義務付けましたが、結果として、川崎市民への販売は金額ベースで87.3%でした。

■ 販売金額及び件数（表2）

（単位：円）

	川崎市民	その他	合計
金額	1,745,900,000 87.3%	254,100,000 12.7%	2,000,000,000
件数	974 87.2%	143 12.8%	1,117
平均購入額	1,792,505	1,776,923	1,790,510



3 「川崎シンフォニーホール債」購入者アンケート結果

ミニ公募債を次回発行する際の販売戦略に資するとともに、対象事業への理解を深めてもらうため、購入者を対象に取扱金融機関を通じてアンケートを実施しました。

その結果、販売件数 1,117 件に対して 677 人の購入者からの回答を得ました。

■ 購入者アンケート（表 3）

販売件数	アンケート回答数	回収率
1,117	677	60.6%

4 アンケートの結果内容の概要（詳細は別紙のとおり。3 頁～）

- （1）男女別では女性の割合が 6 割と高くなっています。
- （2）世代別では 60 歳代から 70 歳代の割合が 6 割と高くなっています。
- （3）購入金額別では 200 万円未満の購入者の割合が 6 割強と高くなっています。
- （4）一人当たりの平均購入額は 180 万円弱で、世代別では 50 歳代が最も高くなっています。
- （5）居住地域別では川崎市の北部地域に比べ南部地域の方が多い傾向にあります。
- （6）4 割の購入者が市債の情報を金融機関から得ているが、市政だよりによる効果もあります。
- （7）4 割強の購入者が市政や対象事業に対する積極的な関心からこの市債を購入しています。
- （8）3 割強の購入者が金利選好によらないで市債を購入しています。
- （9）購入限度額は 500 万円が適当とする購入者が 3 分の 1 で最も高くなっています。
- （10）満期の年限では「5 年」を希望する購入者が 6 割を占めています。
- （11）資金使途では「福祉、保健、医療等」が望ましいが 4 割を占め最も高くなっています。
- （12）市債の購入経験がない購入者が 8 割を占めています。
- （13）9 割強の購入者がミューザ川崎シンフォニーホールに高い関心を寄せています。

「川崎シンフォニーホール債」購入者アンケート結果

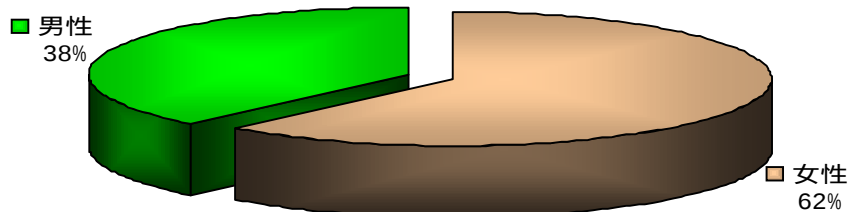
1 男女別では女性の割合が6割と高くなっています。

購入者アンケート総数677人の男女別割合は、女性が419人(62%)、男性が258人(38%)となっており、女性購入者の割合が全体の6割を占めていると考えられます。

■ 男女別・世代別構成(表4)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
女性	2	7	20	38	82	148	108	13	1	419
男性	4	6	13	20	42	89	71	12	1	258
合計	6	13	33	58	124	237	179	25	2	677

図2 男女別構成

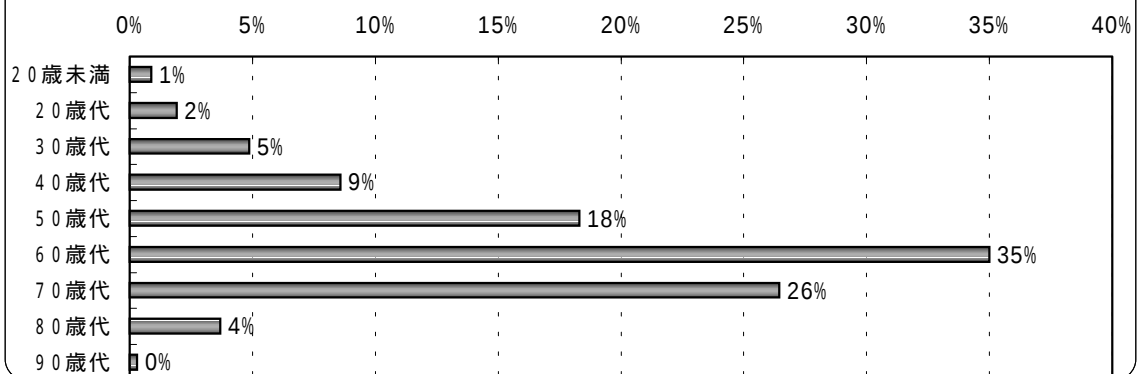


2 世代別では60歳代から70歳代の割合が6割と高くなっています

世代別に見ますと、60歳代が237人(35%)で圧倒的に多く、60歳未満の人の割合とほぼ同じとなっています。70歳代179人(26%)と合わせますと全体の6割を占めていると考えられます。

これは、高齢者ほど、金利面で預貯金よりも有利な市債で、安全に資産運用をしたいという意識が強いということがうかがえます。

図3 世代別構成



3 購入金額別では200万円未満の購入者の割合が6割強と高くなっています

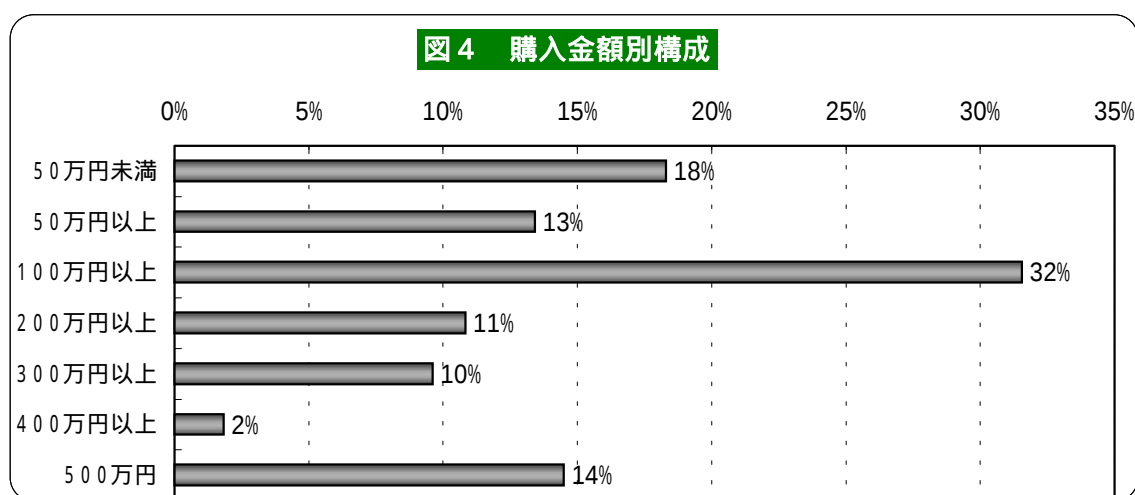
購入金額別に見ますと、100万円代が207人（32％）で圧倒的に多く、100万円未満の人の割合とほぼ同じとなっており、これを合わせた200万円未満の購入者の割合は、全体の6割強を占めていると考えられます。

これは、市債を預貯金代わりに手軽に購入していただけた結果であり「個人の金融資産の運用方法が多様化してきている中で、このミニ公募債に投資していただく形で、新しい資金の運用先を市民の皆さんに提供する」という発行意義に沿う結果になったと考えています。

また、少しでも多くの市民に対して公平に購入機会を与える主旨から、一人当たり500万円までの購入限度額を設けましたが、その限度額での購入は、95人（14％）であり、高額の需要も潜在的にあることがうかがえます。

■ 購入金額別構成（表5）

50万円未満	50万円以上	100万円以上	200万円以上	300万円以上	400万円以上	500万円	合計
120	88	207	71	63	12	95	656



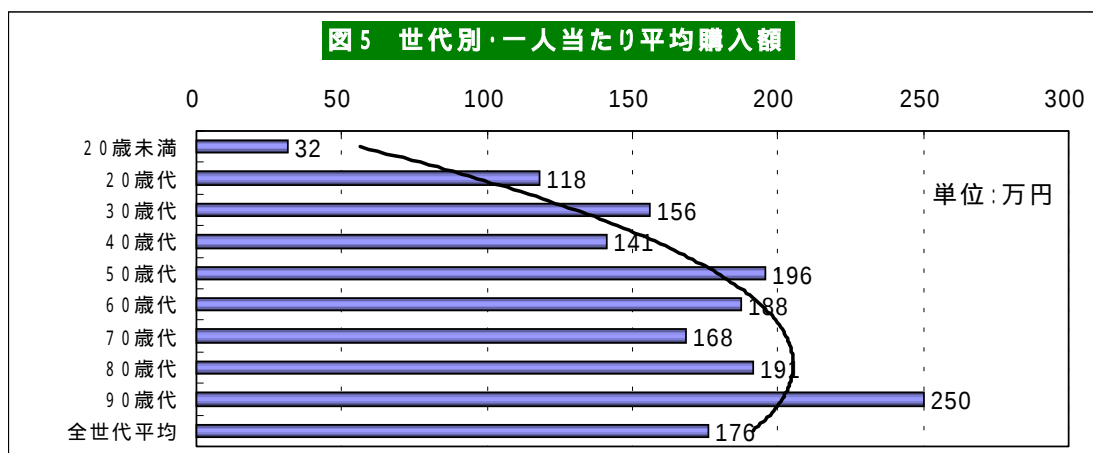
4 一人当たりの平均購入額は180万円弱で、世代別では50歳代が最も高くなっています

世代別に一人当たりの平均購入額を見ますと、件数の少ない90歳代を除けば、50歳代が196万円と最も高くなっています。傾向としては、高齢になるにしたがい購入金額も高くなっています。全世代で平均しますと一人当たり176万円の購入となり、引受金融機関から報告のあった1件当たり平均販売額179万円と同様の結果となりました。

■ 世代別・一人当たり平均購入額（表6）

（単位：万円）

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	合計
平均購入額	32	118	156	141	196	188	168	191	250	176
合計件数	6	13	33	57	123	224	174	24	2	656
合計購入額	190	1,530	5,145	8,035	24,050	42,010	29,270	4,595	500	115,325



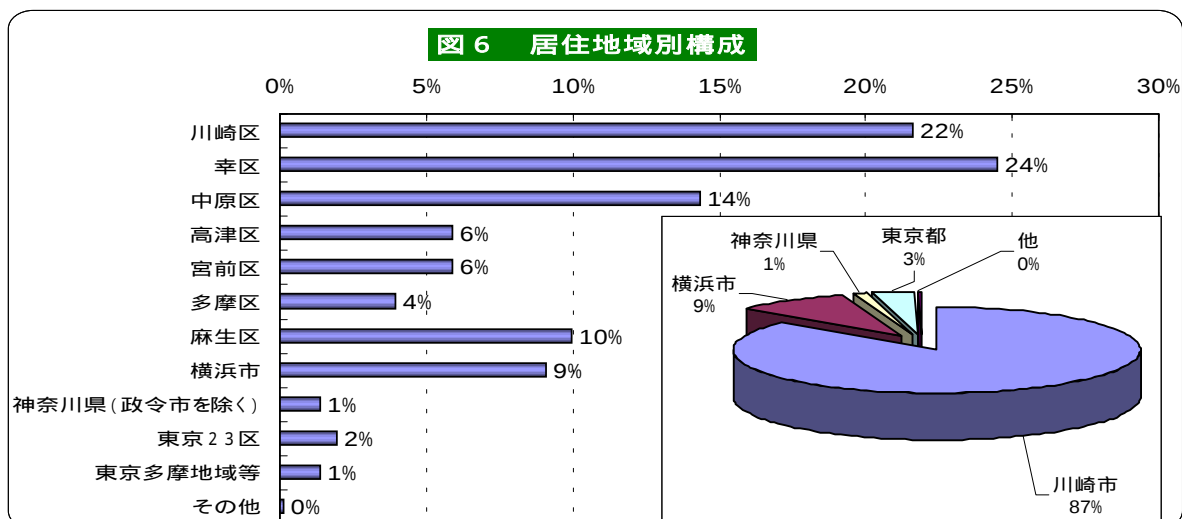
5 居住地域別では川崎市の北部地域に比べ南部地域の方が多い傾向にあります

居住地域別に見ますと、幸区が162人(24%)で最も多く、次いで川崎区が143人(22%)、中原区が95人(14%)、合わせますと全体の6割を占めており、川崎市の北部地域に比べ南部地域の方が多い傾向にあります。北部地域では音楽、演劇などの芸術文化振興の拠点づくりをめざす「芸術のまち構想」をすすめている麻生区が66人(10%)と比較的多くなっています。

また、市内在住または在勤の方への販売を中心としながらも、広く川崎に関心を持つ個人投資家に販売することにより「音楽のまち・かわさき」のファン層の取り込みを図る観点から、販売地域を市内から近隣地域まで拡大した結果、川崎市民が570人(87%)となり、川崎市民以外では横浜市民を中心に92人(13%)の購入があり対象事業への関心の高さがうかがえます。

■ 居住地域別構成 (表7)

川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	川崎市計
143	162	95	39	39	26	66	570
	横浜市	神奈川県 (政令市を除く)	東京23区	東京多摩 地域等	その他	川崎市以外計	合計
	60	9	13	9	1	92	662



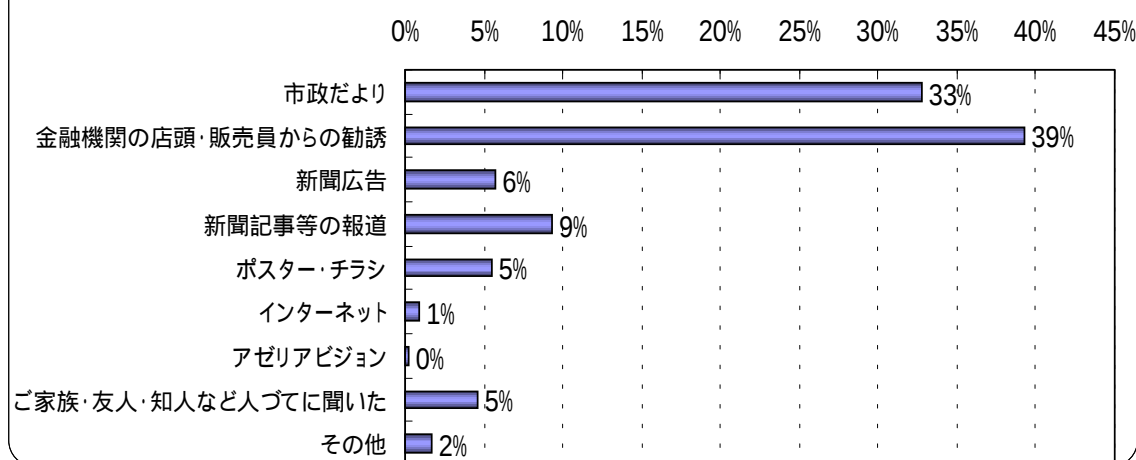
6 4割の購入者が市債の情報を金融機関から得ているが、市政だよりによる効果もあります

「川崎シンフォニーホール債」の募集販売を何で知ったかという質問に対しては、引受金融機関からの勧誘が全体の4割と最も高くなっており、市債の販売を通じたシティセールスや対象事業のPRで大きな周知効果があることがわかります。次いで「市政だより」が3割、新聞記事等の報道が1割となっており、情報媒体としての重要性がうかがえる結果となりました。

■ この市債の募集販売を何でお知りになりましたか（表8）

市政だより	金融機関の勧誘	新聞広告	新聞報道等	ポスター・チラシ	インターネット	アゼリアビジョン	ご家族・知人など	その他	合計
246	295	43	70	41	7	2	35	13	752

図7 この市債の募集販売を何でお知りになりましたか



7 4割強の購入者が市政や対象事業に対する積極的な関心からこの市債を購入しています

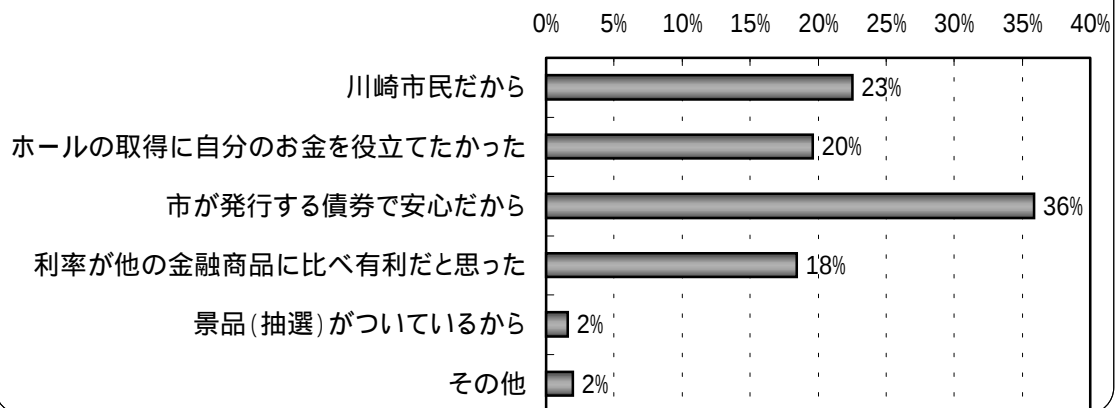
購入動機として特にこの市債を選択した理由についての質問に対しては、「市が発行する債券で安心だから」が360人（36％）で最も高く、金融商品としての安全性を重視していることがわかります。

また、「川崎市民だから」が226人（23％）、「ホールの取得に自分のお金を役立てたから」が197人（20％）であり、合わせますと全体の4割強を占めており、市政や対象事業に対する積極的な関心の高さがうかがえます。これは、「市民が市債の購入を通じて資金の供給者となることにより、対象事業への関心を高めてもらうとともに、市民との協働による『うるおいのある快適で安心な都市づくり』を進める本市の基本理念に対する理解と市政参画意欲の高揚を図る」としたミニ公募債の発行意義に沿う結果になったと考えています。

■ 特にこの市債を選択した理由は何ですか（表9）

川崎市民だから	自分のお金を役立てたい	市が発行するので安心	利率が有利	景品がついている	その他	合計
226	197	360	185	16	20	1,004

図8 特にこの市債を選択した理由は何ですか



8 3割強の購入者が金利選好によらないで市債を購入しています

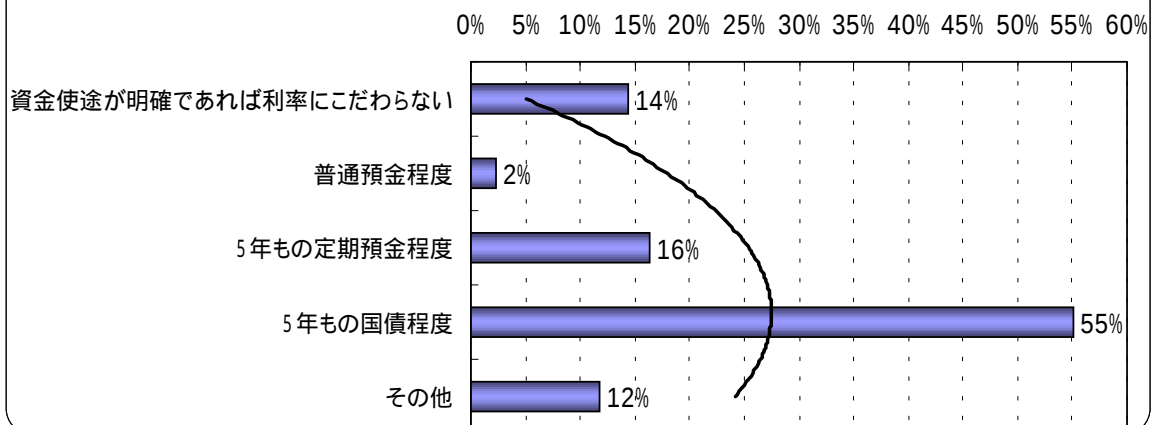
利率についての質問に対しては、「5年もの国債程度」が347人(55%)で最も高く、当然ではありますが、多くの方が今回同様に5年利付国債の利回りを参考にしての市場の実勢に基づいた金利を望まれていることがわかります。

その一方で、「資金使途が明確であれば利率にこだわらない」が91人(14%)、「5年もの定期預金程度」が103人(16%)、「普通預金程度」でもよいが14人(2%)であり、合わせますと全体の3割強を占めており、市債を資産運用商品として金利選好で購入するのではなく、市政参画の意味から購入する方も多くいることがうかがえます。

■ 次回は利率がどの程度なら購入しようと思いますか(表10)

資金使途が明確であればこだわらない	普通預金程度	定期預金程度	国債程度	その他	合計
91	14	103	347	74	629

図9 次回は利率がどの程度なら購入しようと思いますか



9 購入限度額は500万円が適当とする購入者が3分の1で最も高くなっています

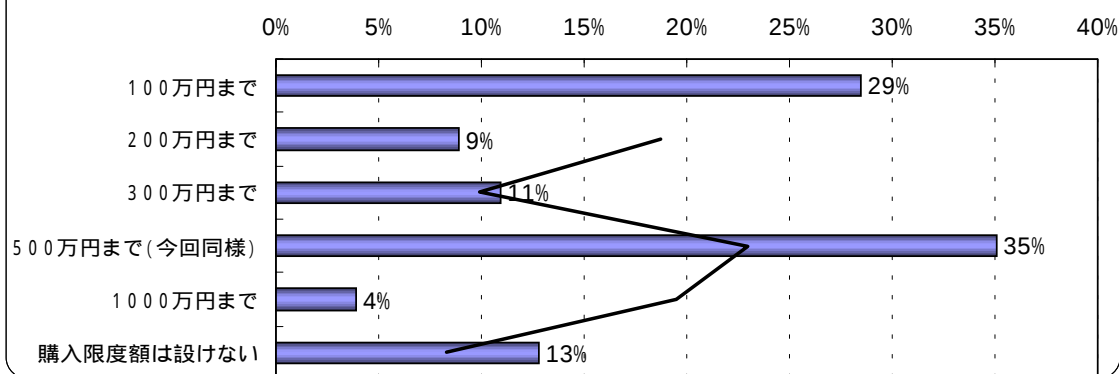
購入限度額についての質問に対しては、「500万円まで」が225人(35%)で最も高く、購入者の視点からは今回の限度額が適当であったといえ、「購入限度額は設けない」と「1000万円まで」を合わせると全体の5割強を占めており、高額需要が大きいことがわかります。

しかしながら、今回の即日完売の販売状況を踏まえ、今回、購入したくても購入できなかった方の潜在需要を考慮し、次回債では、限度額の設定方法について検討する必要があると考えます。

■ 購入限度額はどの程度が適当だと思われますか(表11)

100万円まで	200万円まで	300万円まで	500万円まで	1000万円まで	設けない	合計
183	57	70	225	25	82	642

図10 購入限度額はどの程度が適当だと思われますか



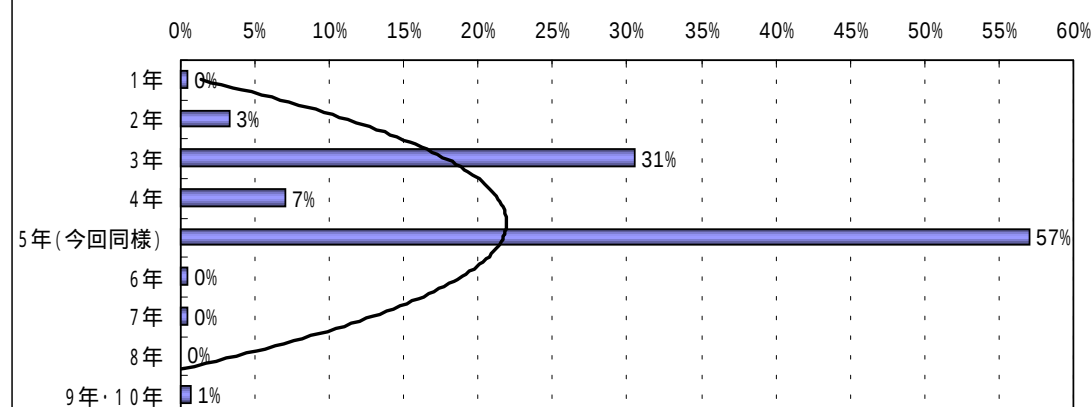
10 満期の年限では「5年」を希望する購入者が6割を占めています

満期の年限についての質問に対しては、今回と同じ「5年」が405人(57%)で最も高くなったものの、川崎市では発行していない「3年」が217人(31%)、4年以下では4割強を占めることになり、短期年限の商品に対する希望が多いことがわかりました。

■ 満期の年限はどのくらいが望ましいですか(表12)

1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年・10年	合計
3	23	217	50	405	3	3	1	5	710

図11 満期の年限はどのくらいが望ましいですか



1 1 資金使途では「福祉、保健、医療等」が望ましいが4割を占め最も高くなっています

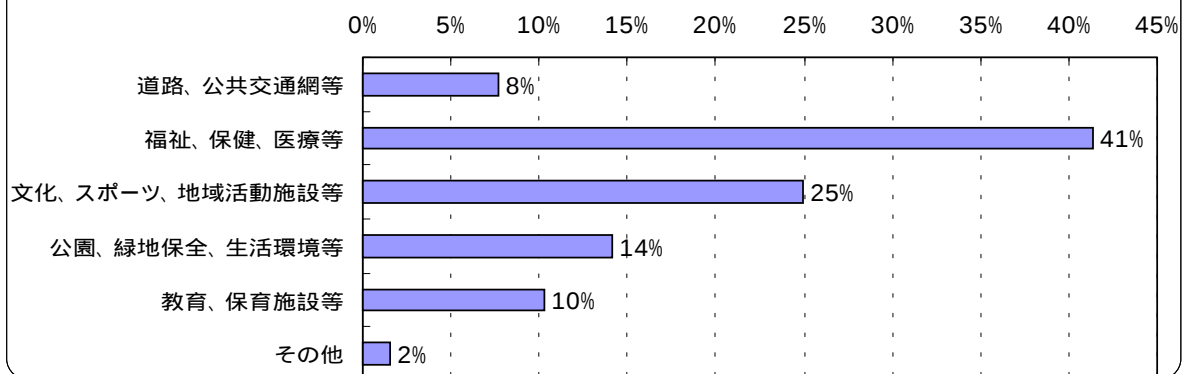
資金使途についての質問に対しては、「福祉、保健、医療等」が342人(41%)で最も高く、市民の関心事のトップが「健康」であることに沿った結果となりました。

次回債も、この結果を参考に、市民にとって分かりやすく、積極的な参加を募るのに相応しい事業を選定することとします。

■ 今後どのような事業に資金を活用するのが望ましいですか(表13)

道路、公共交通網等	福祉、保健医療等	文化、スポーツ地域活動施設等	公園、緑地保全生活環境等	教育、保育施設等	その他	合計
64	342	206	117	85	13	827

図12 今後どのような事業に資金を活用するのが望ましいですか



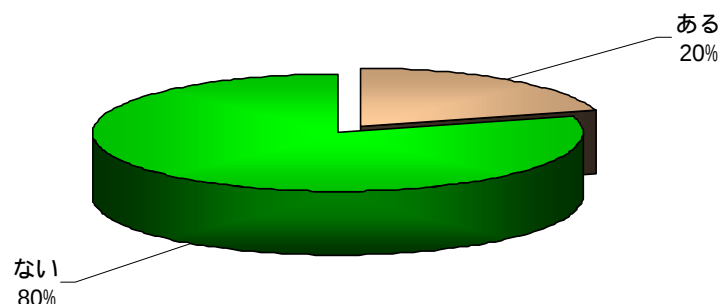
1 2 市債の購入経験がない購入者が8割を占めています

川崎市債の購入経験についての質問に対しては、「ない」が528人(80%)となっています。そのうち、購入したことがない理由についての質問に対しては、「発行されていることを知らなかった」が318人(60%)で最も高くなっていることから、個人販売促進のためのさらなる広報活動が必要であると考えます。

■ 以前に、川崎市債を購入されたことはありますか(表14)

ある	ない	合計
136	528	664

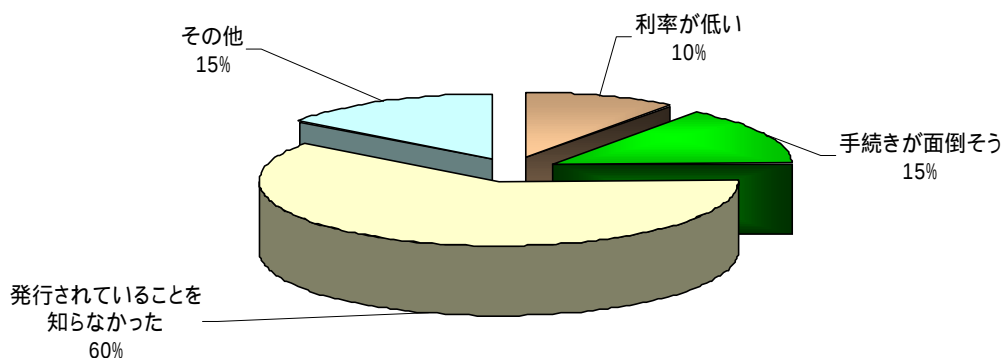
図13 以前に、川崎市債を購入されたことはありますか



■ 川崎市債を購入されたことがない理由は何ですか（表 1 5）

利率が低い	手続きが面倒そう	発行されていることを知らなかった	その他	合計
54	77	318	79	528

図 1 4 川崎市債を購入されたことがない理由は何ですか



1 3 9 割強の購入者がミュージア川崎シンフォニーホールに高い関心を寄せています

対象事業を知っていたかの質問に対しては、「以前から知っていた」が393人（60%）であり、資金使途を明確にしたことが好調な販売に繋がったと考えられます。

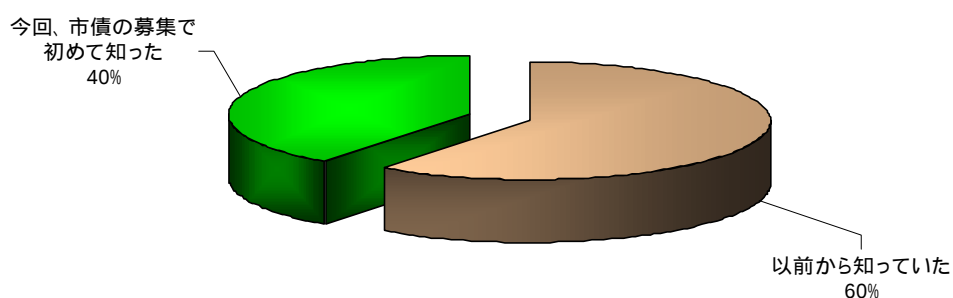
一方で、「市債の募集で初めて知った」が260人（40%）でしたが、市債の販売を通じて「シティセールスや対象事業のPRの一環として、ミュージア川崎シンフォニーホールを内外に発信していく」ことに一定の効果があったと考えられます。

また、ミュージア川崎シンフォニーホールに行ってみたいですかの質問に対しては、「ぜひ行ってみたい」が429人（64%）で最も高く、「好きな公演があれば行ってみたい」の200人（30%）と合わせると94%となり、今回の対象事業について世代にかかわらず関心が高いことがわかりました。

■ ミュージア川崎シンフォニーホールのことをご存知でしたか（表 1 6）

以前から知っていた	市債の募集で初めて知った	合計
393	260	653

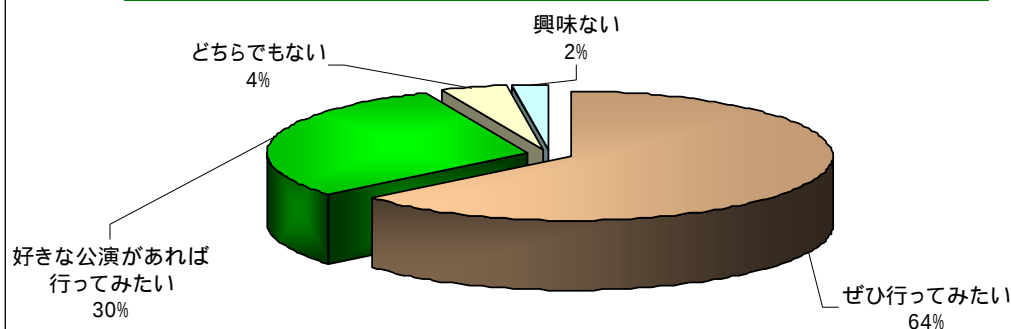
図 1 5 ミュージア川崎シンフォニーホールのことをご存知でしたか



■ ミューザ川崎シンフォニーホールが開館したら行ってみたいですか（表１７）

ぜひ行ってみたい	好きな公演があれば行ってみたい	どちらでもない	興味ない	合計
429	200	28	15	672

図１６ ミューザ川崎シンフォニーホールが開館したら行ってみたいですか



複数回答及び無回答があるため、各設問の回答数の合計はアンケート回答者数と一致しない場合がある。

問合せ先：財政局財政部資金課
 電話 044 - 200 - 2182
 FAX 044 - 200 - 3904